

福島教区報

天理教福島教務支庁

〒960-8022 福島市新浜町7番26号
TEL 024-534-2251 / FAX 024-534-2404

教会数 98ヶ所
布教所数 87ヶ所
よふぼく数 3,132人
(2023.9月現在)

謹賀新年

謹んで立教187年の新春のご祝辞を申し上げます。

昨年、福島教区に繋がる皆様方には、『諭達第4号』の思いに沿って、今、出来る信仰活動の上に前向きにお励み下さいまして誠に有難うございました。

本年は教祖140年祭に向かつての三年千日活動第2年目、神一条、よろこび一条、たすけ一条で信仰活動を進め、ご存命の教祖にお喜びいただきたいと切に願います。本年一年も、なお一層、教区、各支部、各部各会の活動の上に、ご尽力ご丹精を賜りますようお願い申し上げます、新年の挨拶といたします。

教区長 平澤勇一

『よふぼく』各活動日 各支部で開催

10月29日(日)、教祖140年祭に向けた『よふぼく一斉活動日』の第1回目が福島教区管内8支部9会場で開催され、合わせて308名が参加した。

それぞれの会場に集まった参加者は、おつとめをつとめた後、『諭達第4号』を共に拝読した。その後、教会本部からのビデオメッセージを視聴した。

その中で、松村義司たすけ委員長は、この三年千日の期間には教祖にお喜び、ご安心いただくとの気持ちで年祭活動に励んでいただきたいとしました。そして、教祖の教えは自分でやってみて初めて間違いないと分かってくる人が多いと、具体的な行動や目標を定めて実践することを促した。最後に、今日はお互いに励まし合って教えを實踐し、それぞれの年祭活動へ繋げ

ていこうと結ばれた。

この後、会場別のプログラムがそれぞれに行われ、参加者は年祭活動に対する決意を新たにしました。

なお、今年は6月と11月の2回、開催が予定されている。詳しくは各支部へお尋ねください。

【参加対象】 ようぼく

【開催日時】

- 第2回 立教187年6月1日(土)、2日(日)
- 第3回 立教187年11月3日(日)、4日(祝)
- 第4回 立教188年5月31日(土)、6月1日(日)
- 第5回 立教188年11月1日(土)、2日(日)
- ※第2回以降はどちらかの日を選んで開催

【参加御供】 300円

【会場】 全支部で会場を設定する

●福島支部(椿秀教支部長)

【会場】福島分教会

【参加者】61名

会場ごとのプログラムでは「おさづけの取次について」をテーマに取り次ぎ方などを確認した後、参加者お互いにおさづけを取り次いでいただいた。閉会后には茶話会が開かれた。



●安達支部(本田道弥支部長)

【会場】安達分教会

【参加者】35名

会場ごとのプログラムは「ひのきしん」で、近くの霞ヶ城公園へ移動し、ゴミ拾いをさせていただいた。好天に恵まれ、楽しみながら取り組むことができた。未信仰の方を誘って参加してくださった人もいた。



●郡山支部(橋本義弘支部長)

【会場】行理山分教会

【参加者】57名

会場ごとのプログラムでは、4月の教区祭での内統領・宮森与一郎先生の講話を視聴させていただいた。ユーモアを交えて分かりやすく、「無理をせず、ちよつと苦労してみるのが大事に つながる」とのお話に、参加者は領きながら聞き入っていた。



●田村支部(矢部秀樹支部長)

【会場】三春分教会

【参加者】13名

会場ごとのプログラムは「講話」で、荒井忠弘先生(三春分教会長)が「おつとめ」について、体験を交えながらお話された。教祖のひらがたの後半部分で教えらりやすくお話をいただき、おつとめを急き込まれた教祖の思いが感じられた。





● 耶麻支部(近藤直光支部長)

【会場】猪苗代分教会

【参加者】39名

会場ごとのプログラムは誰でも参加しやすい「ひのきしん・茶話会」で、JR猪苗代駅に移動し、勇んで駅舎内外の清掃ひのきしんに励んだ。その後会場に戻り、茶話会となった。いろいろな意見交換もでき、よい内容だったと思う。

● 会津支部(杉澤元和支部長)

【会場】若會分教会

【参加者】64名

会場ごとのプログラムは「おつとめまなび」で、座りづとめとよろづよ八首を事前に役割を振って、それぞれに練習して臨んだ。

閉会后には芋煮会を開き歓談すると共に、時報手配り者に感謝状を贈ったり、ビンゴを行うなど、楽しいひと時を過ごした。

● いわき支部

(梅井真治支部長)

【会場】菊多分教会

【参加者】22名

会場ごとのプログラムは「ひのきしん・茶話会」で、まず、近くの河川敷へ移動し、ゴミ拾いを行った。その後会場に戻り、茶話会となった。所属教会が支部外の方も数名来て下さり、自己紹介を交えながら和やかな雰囲気でのいろいろと話をする事ができた。

● 相双支部(目黒淳支部長)

【会場】福相分教会

【参加者】5名

会場ごとのプログラムは「茶話会」で、気楽にいろいろと話をすることができた。プログラム全体を通して、参加者はまじめに受講し、この旬のつとめをしっかりと行かなければならない自覚を持ったように感じる。

【会場】原町分教会

【参加者】12名

会場ごとのプログラムは「茶話会」。東日本大震災、そしてコロナ禍と、長い間支部活動が思うようにできていなかったため、久しぶりに会う教友といろいろと話ができて、大いに盛り上がった。

厚生部

「ひのきしんスクール」を開催

福島教区厚生委員が「ひのきしんとは」部（杉澤元和部長）では、10月1日（日）、福

話を話した。

の聴き方、日常生活での応用などについて話した。昼食後、宇田氏が、「憩いの家」で公認心理師・臨床心理士として勤める中で得た体験などを時折はさみながら、「カウンセリングの基本」として、カウンセラーとクライアントの関係性、カウンセラーの三原則などを話した。

最後に、質疑応答の時間が設けられ、参加者からの質問に、宇田氏、梅井氏の両氏が具体例を交えながら答え、カウンセリングや傾聴の理解を深めた。（M・S）

島教務支庁で「ひのきしんスクール」を「カウンセリング」をテーマに開催し、15名が参加した。

手医科大学いわてこどもケアセンター公認心理師・臨床心理士）が「カウンセリングに学ぶ 聴くことの大切さ」と題して、現場での体験等を通して学んだ聴くことの大切さ、効果的な話

続いて、梅井真治氏（大名港分教会長／いわき傾聴

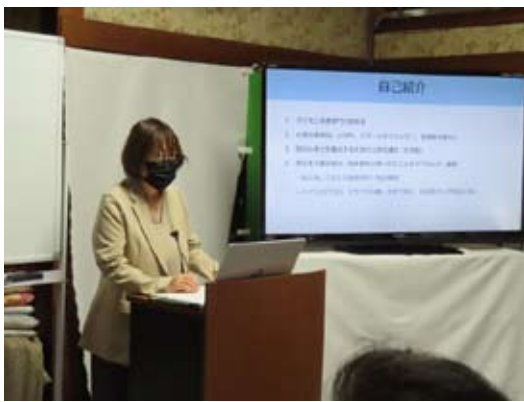
が3人1組に分かれて、『聴く』ことを体験した。

杉澤部長が開講のあいさつした後、宇田まゆみ氏（ひのきしんスクール運営

を話した。

続いて、梅井真治氏（大名港分教会長／いわき傾聴

が3人1組に分かれて、『聴く』ことを体験した。



雅 楽

「津雅龍会（津大教会）」

福島復興支援雅楽演奏会」開催

10月1日(日) 津大教会では東日本大

新地町交流セン 震災直後から被災地支援を

ターで「津雅龍 続け、10年の節目で計画さ

会（津大教会）福島復興支 れた演奏会だったが、コロ

援雅楽演奏会」が開催され、 ナ禍の影響で延期が続き、

津大教会から津大教会長様 この度ようやく開催の運び

はじめ雅楽関係スタッフ26 となった。また福島教区雅

名の方々が向いて福島支 楽会からも9名が参加し、

援の演奏会をして下さっ 共に曲を演ずるなどした。

津雅龍会の管弦「越天楽」

で幕を開け、謡物「越天楽

今様」「黒田節」も披露さ

れた。続いて福島教区雅楽

会が中心となって「五常楽

急」を奏でた。休憩の後、

津雅龍会の舞楽「蘭陵王」

が演じられ、楽器紹介をは

さんで、箏篋に合わせて「ふ

るさと」を観客と共に歌っ

た。最後は津雅龍会と福島

教区雅楽会が合同で『長慶

子』を演奏した。(Z・N)



災 救 隊

いわき水害に10月も出動

災害救援ひ は、人力で回収地点まで土砂

のきしん隊福 や被災ゴミを運び出すなど、

島教区隊（荒 「困ったときの災救援」とし

井弘徳隊長） て、社会福祉協議会の方から

では、9月に引き続き、 も感謝された。

磐城平大教会を拠点に、 また、大教会やいわき支部

10月11〜13日、17〜19日、 の婦人会を中心に受入れの

30〜31日と3次にわたっ ひのきしんにあたった。

て「いわき市水害」に出 (H・A)

動した。

被災地近くまで車が入

れないため一般ボラン

ティアが断念した現場で

◎福島教区隊出動人数◎

	出動隊員	出動件数	受入れひのきしん者
10月11日	13名	14件	5名
12日	9名		8名
13日	10名		5名
17日	11名		5名
18日	16名		6名
19日	19名		5名
30日	16名		5名
31日	18名		9名

婦人会

「婦人の集い」を開催

福島教区婦人会（平澤栄美主任）では、11月3日（金・祝）、福島教務支庁で「婦人の集い」を開催し、50名の婦人会員が参加した。



まず、佐久間雄大先生（東越分教会長）が『ひきこもりの現状と関わり方を考える』と題して講演した。現在、「ボランティアアグルー

プKATARI」の代表を務める佐久間氏は、福島市で不登校・引きこもりの方の支援・居場所づくりを行っており、その経験を踏まえてお話しされた。

その後、5〜6名のグループに分かれて「ねりあい」が行われ、生きづらさを抱える人々に対し何ができるかなど、感じたことを話し合った。（E・H）



基礎講座

耶麻支部会場に18名参加

11月5日（日）、「天理教基礎講座」（耶麻支部会場）が喜多方プラザで開催され、初めての方4名（内未信仰の方1名）を含む18名が受講しました。

ビデオや杉澤元和講師の講話を通して、天理教の教えが初めての方にも分かりやすく紹介されました。



参加者からは、「八つのほこり、心の遣い方がとても理解できました。」「分かりやすい話でした。今後どんな時も喜べるような心遣いをしていきたいです。」「このような機会は初めてで、とてもよかったです。」「改めて気付きを与えていただきました。」「との声も聞かれました。

次年度は教祖140年祭の年祭活動2年目となり、教区の行事も一段と喜び勇んだ活動が目白押しとなります。よって天理教基礎講座・福島会場の開催は1回となります。皆さんに喜んでもらえる基礎講座となるよう引き続き努力すると共に、年祭活動の上にも尽力していきたいと思えます。

(K・K)

祭事部

「年末大掃除ひのきしん」を実施

12月1日、祭事部（小野修部長）では「年末大掃除ひのきしん」を実施し、教区役職者をはじめ、災救隊員や青年会員など16名が参加した。

午後1時、教務支庁神殿に集まった参加者は、小野部長の手に合わせて参拝をした後、神殿を中心に、教務支庁内を上から下へ、天

井払い、はたき掛け、掃き掃除、拭き掃除と順次作業を進め、午後3時過ぎの終了時には、建物内部はきれいに払い清められた。

夕づとめ後には、「災救隊年末連絡会」も行われ、今年1年の活動が報告され、次年も引き続き、活動の上にお力添えをいただけるようお願いされた。

(O・O)

道の教職員の集い

「きょういく講演会」開催

12月2日、道の教職員の集い（齊藤元康代表世話人）では「きょういく講演会」を福島テルサで開催、41名が受講した。

天理高校野球部監督の中村良二先生が「3つのきょういく」とのテーマでお話をした。

中村先生はまず、「きょういく」には「教育・協育の3つあるとした上で、自らの体験をもとに話を進めた。

まず、小学生の頃からプロ野球の選手として活躍するまで、それぞれの指導者に自らが「教え育てられた」ことについて話した。

プロを引退後は、地域の小中学生を指導する中で、子供たちを育てると共に自らも指導者として育ててもらった（共育）と、具体例を挙げながら話した。

(7)

最後に、天理大学、そして天理高校の監督として務める中に、保護者をはじめ関係する方々と協力して学生生徒を育てることができた（協育）と、感謝の思いを込めて述べられた。

(M・S)



田村支部

「みおしえ学習会」開催

田村支部（矢部秀樹支部長）では、11月19日（日）、三春分教会において、「みおしえ学習会」を開催し、17名が参加しました。

佐久間雄大先生（東越分教会長）、齊藤峻徳先生（安達分教会教人）がファシリテーターをつとめました。テーマは「十全の守護」で、参加者はファシリテーターの進行に沿って、ワークシートの質問に答えたり、それを基に隣と人話したりした。

参加者からは、「水のイメージ、一つとっても、それぞれに思い描くイメージを聞くことができてよかったです。」「前向きに通らせていただこうと思えた。」などの感想が聞かれた。

(H・Y)



教祖140年祭へ向かって
毎月2日（1月は3日）
午前9時～
神名流し（教務支庁周辺）
午前10時～ 教区祭典

春の学生おぢぼがえり
3月26日（火）～29日（金）

26日 7時 教務支庁発一おぢぼ着
27日 お楽しみ行事（USJ）
春Fes
28日 別席、式典、直属アワー
29日 6時半 天理発一教務支庁着
参加費 22,000円
（現地参加は16,000円）
宿泊 津詰所

立教187年 教区祭
4月2日（火）10時執行

座りづとめ 主事・各支部長・教区婦人会
よろづよ八首 少年会
一、二下り目 学生会・青年会・女子青年
三、四下り目 郡山支部・田村支部
五、六下り目 会津支部
七、八下り目 耶麻支部
九、十下り目 いわき支部・相双支部
十一、十二下り目 福島支部・安達支部
記念講演 諸井道隆先生
（たすけ委員会委員）
（山名大教会長）
御礼参拝・教区長あいさつ
歌「親神様の守護」
少年会、教祖へご誕生お祝い
着替え・昼食（弁当）
参加御供 500円

福島教区ホームページ 「天理教福島教区」で検索！

Http://tenri-fukushima.sakura.ne.jp